

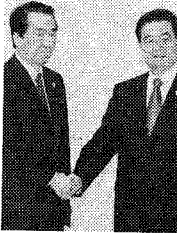
仙・菅「ヤマト」の田中康夫 稲田朋美

片道特攻 絶賛公開中

(新党日本代表)

(自民党衆議院議員)

日中首脳会談に臨む菅首相



国会でつい口がすべる仙谷官房長官



哲学も理念もない

空虚な政治家に

国政を任せてはおけない

田中 稲田さんは「政局のためでなく、選挙のためでもなく、この国をよくするために、私は闘います」と著書で語っています。その稲田さんの衆議院本会議の代表質問（十月六日）には

与野党の立場を超えて、心ある民主党議員も快哉を叫んだでしょう。私も感動した一人です。菅直人内閣の迷走の本質を見事に突いていたからです。冒頭で稲田さんは「民主党政権になって一年、民主党政権には、日本の主権を守る意思がない、領土を守る意思がない、家族と地域社会を守る意思がない。そして何よりも、国家観がない。この国がどんな国を目指すのかという理念もない。つまり、意思も国家観も理念もない空っぽの政党なのです」と話されました。

つまり、政権の座に就くことが目的で、その権力を使って何をやりたいかが、さっぱり見えてこない。実はやりたいことなど何もないのではないか、と思われたのですね。

稲田 非常に空虚なのです。代表質

問でもいいましたけど、そもそも民主党には理念や政治信条を表した綱領がないのですよ。自分たちが何者であるかがわかっていないし、国民にも示していない。これでは、自分たちが国民のために何をやるべきなのか見えてくるはずがありません。共通の哲学や理念を持たない寄せ集め集団から生まれた菅内閣が権力に汲々としがみつくとしかできないのは、当然といえば、当然の帰結でしょう。

田中 私の新党日本が与党統一会派

を組む国民新党の亀井静香さんは、政権交代前から民主党を「生煮えの混ぜご飯」だと危惧していました。今や「のびた煮込みうどん」状態です。

尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件に関する稲田さんの追及も射ていたと思いません。少し引用させて下さい。

「総理及び菅内閣の閣僚は、釈放は那覇地検の独自の判断であったと言い、検察当局も同じことを言っています。誰も信じない、卑怯な責任逃れです」

「本件のように極めて高度な政治判断を必要とする外交問題について検察当局に委ねたとすれば、菅総理及びその内閣には、重大な外交上の局面において、政治判断をする意思も能力もないことを自ら認めたことになりました」

「今回の釈放において、日中関係、国民への影響という、まさしく国益そのものであり、外交の目的そのものの判断を検察当局に委ねたことは、あなたが理想とし、政権交代の大義である政治主導の自殺行為ではありませんか」

稲田 以前から考えていたことを自

分の言葉で述べただけのことです。田中さんがちゃんと私の質問の中身を評価してくださり、光栄です。

なぜ、国民に謝れないのか？

田中 でも、翌日の新聞は、「官僚の作文でなく、あなた自身の真実味のある言葉で」答弁して下さいと稲田さんが迫ったのに対し、「それなら原稿を読まないで質問するのが筋だ」と菅さんが青筋立てて激昂し、「私も野党時代にはかなり厳しい言葉を使ったが、これほど汚い言葉は使わなかった」と絶叫した箇所ばかり取り上げたのでガツカリしました。国会は政策を語れ、と社説で書いているのにね（苦笑）。

ところで、所属されている自由民主党から、このことは盛り込んでほしい、といった要望はあったのですか。

稲田 本会議の五日前に代表質問を書いてほしいので、九千字程度で原稿を送って、質問の前日までに原稿を送ってください、という指示だけで、内容

は一任されました。そういうところは自民党は自由なんです。ですから、民主党が昨年の衆院選で掲げたマニフェストは詐欺だったという、以前から訴えていた主張も盛り込みました。

ご存知のように民主党は子ども手当、農家への戸別補償、ガソリンの暫定税率廃止、高速道路無料化などのバラマキのための財源は十六・八兆円かかるが、それは国の予算を組み替えれば、二十兆、四十兆すぐに出てくる、といっていました。でも、ふたを開けてみれば、そんな財源はどこにもなかった。それどころか、ガソリンの暫定税率廃止は当時の小沢一郎幹事長の「鶴の一声」で実行されず、高速道路無料化は実質値上げとなり、公務員の人件費二割カットには一向に手がつけられない。普天間基地の国外・県外移設もできなかつた。「事業仕分け」で無駄を減らして、財源を作ったというのはいくらもありませんが、昨年、捻出できたのは約七千億円でしょう。それぐらいなら、体育館を使って大仰なパフォー

マンスをしなくても、自民党が与党のとき毎年、やってきたことですよ。

失敗したときや嘘をついてしまったときに政治家が真っ先になすべきは、謝ることでしょう。政権は取ったけれども、マニフェスト通りにはできないことがわかりました、と真摯に国民にいうべきです。でも、民主党にはそれができない。だから、場当たりのな取り繕いや弁解を続けるしかないのです。

田中 前原誠司さんは、その典型ではないでしょうか。JAL問題も八ツ場ダムも、したり顔で威勢の良い発言をしたけど、直ぐに腰砕け。混乱を引き起こした製造責任が問われているのに、逆に居直ってしまう。哲学も覚悟も持ち合わせぬ「お子ちゃま」というか、「口先番長」なんですね(苦笑)。

「こんなに借金があるのは、自民党のせい。それで我々は苦勞している」と彼が繰り返して答弁するので、予算委員会の場でたしなめたんです。「前の経営陣が悪かったから、業績が上がらない。そんな言い訳をする経営者がどこ

にいますか。リーダーは全てを引き受けるのです」と。

実は私も、身の丈を超えたハコモノ公共事業で借金まみれの山国で県知事に就任直後、利息の返済分だけでも一日当たり一億五千万円に達すると知って驚きました。不透明な五輪招致に関わった地元の新聞社も報じなかった事実です。でも、男は黙って、任期六年間、全国で唯一、起債残高(借金)を減少させ、プライマリバランス(財政収支)を連続黒字化し、談合続きの公共事業を改め、外郭団体の九十六%を統廃合し、そこで生まれたお金を元手に全国で最初に小学校三十人学級を六年生まで実現し、福祉・医療・教育・農林業と多くの変革を実行しました。自慢話でなく、リーダーとして当たり前のことです。その当たり前のことも出来ずに、政権交代から一年経っても責任転嫁するのは、政治家としての覚悟の欠落ですし、自民党政権を選択してきた国民を愚弄する話です。

福田 同感です。一連の尖閣問題で

に「APECの開催を前にして包括的経済連携に関する基本方針を閣議決定をいたしました」と述べはじめのです。主旨の違う質問に対して、あんな心のこもっていない、官僚が作った原稿を平然と繰り返し読み上げられるのは、いったいどういう神経なんだろう、と理解に苦しみました。首相の答弁には、民主党議員もシラけていましたよ。首相が上った国会の雑壇と議員席の間にすでに溝ができていくように感じましたね。一体感が全然ないのです。

田中 自民、公明、共産の質問に一字一句、同じ答弁を繰り返すのですから、私も呆れました。事務方が書いた原稿に「駄目出し」もせず国会に臨んでいるとは、官房副長官といった周囲の政治家も職務怠慢ですね。

福田 首相がそんな調子だから、十一月に辞任に追い込まれた柳田稔法相の「答弁は二つおぼえておけばいい」という発言が出てくるのも、むべなるかなです。法務大臣が柳田さんに代わってから法務委員会の審議はまったく

意味がなくなりました。議論する前提の知識が圧倒的に足りないからです。これで政治主導とは何なのかといつも疑問に思っていました。

欺瞞と矛盾に満ちた菅内閣

福田 とにかく菅内閣には政治家の重責を担う覚悟がないから、発言や政策が首尾一貫していませんね。それは一國の政治を担うにあたって、非常に危険なことです。十一月に北朝鮮が韓国の延坪島を砲撃したからといって、急に朝鮮高等学校の無償化申請の審査を見合わせる、というのも場当たり的ですよね。私は無償化には断固反対ですけど、いったん無償化する方針を打ち出しておきながら、今回の砲撃で止める、というのは、どういう理屈なんだろう、と思ってしまうですね。

田中 まさに哲学も意思も覚悟も感じられない。

福田 菅首相は消費税十%を掲げて参院選を戦ったのに、負けた途端いわ

も菅内閣の面々の一國の舵を執る覚悟のなさが露呈しましたね。

田中 尖閣沖での中国漁船衝突事件でも当時、国土交通大臣だった前原さんは「官邸が日和っていた。(船長の)逮捕を決めたのはオレだ」と周囲に豪語と報じられていたのに、何とも腰砕けな釈放後には外務大臣会見で一転、「ビデオを見る限りにおいては、悪質な事案であるとの意見を海上保安庁に申し出たまで。国交大臣だった私に逮捕権はない。逮捕権があるのは海保庁」と逃げたのです。都合が悪くなると責任は部下に押し付ける。これでは、政治主導の名が泣きますし、真つ当な官僚だって、意欲が削がれますよ。

福田 菅首相もひどいですよ。十一月十六日のAPEC(アジア太平洋経済協力)後の衆議院本会議では、複数の議員がTPP(環太平洋洋連携協定)の各国との協議について、違う角度から違う質問をしたのに、ほとんど同じ答弁を繰り返していましたね。TPPと来れば、質問の内容はおかまいなし

なくなってしまうでしたね。

中国に対する外交姿勢もまったく定まらないですね。そもそも中国を明確な脅威として位置付けられない限り、日本の外交方針は立てられないと思うのですが、民主党政権は、日米、日中関係を等しく重視する「日米中正三角形」を唱えてみたり、鳩山前首相が「東シナ海を友愛の海に」といつてみたりと、対中国の外交姿勢がはつきり見えません。

田中 笑顔で握手しながら、テーブルの下では急所を掴み合う。こうした冷徹な智力と胆力が、外交交渉には不可欠ですよ。国家とは国益を追求してナンボの存在なのですから、中国だけでなく米国も、他の国も皆、貪欲です。APEC終了後の会見で菅さんが、ロシアからも米国からも来年の訪問を招待されました、と嬉しそうに語るのを見て、哀しくなりました。だって、ナターシャとメアリーの二人からお誕生日日パーティに招待されたよお、と無邪気に喜んでる幼稚園児状態(苦笑)。

そのAPEC開幕直前、第三の開国だ、黒船襲来だと菅さんが「パニック症候群」に陥ったTPPに関して、稲田さんは私と同じ懸念を抱いてらっしゃる。

稲田 そうなんです。菅内閣はTPPに加盟して、加盟国間であらゆる産品にかかる関税を撤廃するなど、ヒト、モノ、カネの移動の障壁をなくさなければ、日本は生き残れないと主張しています。そうなれば、加盟国の農産物が非常に安く入ってきますから、生産コストが高く、国際競争力の低い日本の農家は生き残れません。だから、私はTPPの即時撤回を求めています。もし百歩譲って、民主党がいうようにTPPに加盟してもなお、日本の農業を守るとしたら、農家の大規模化を進めたり、ブランド力を高めて、国際競争力を高めるしかないでしょう。でも、民主党は一方で、それを阻む政策をとっています。それが、詐欺マニフェストのなかで実現された数少ない政策である「農家の戸別所得補償」です。自民党は与党時代に農業を

「弱者切り捨て」と批判して、小規模農家でも援助を受けられる戸別所得補償制度を導入してしまった。

田中 たとえば、夫が県庁職員、妻が学校教諭の兼業農家は、給与所得だけでも県民所得の四倍もの年収でしょ。耕作物は大半が自家消費で、週末に小一時間、ガーデントラクターを動かして、申し訳程度に出荷するだけ。ところが、計算上は生産コストの方が高くなるので、戸別所得補償の対象なのです。こうした「片手間農家」と呼ばれる裕福な公務員世帯に「ヤミ手当」を与えるのは、本末転倒だと、稲田さんの質問の翌日（十月七日）の本会議で代表質問したら、自民党や公明党の議席から拍手と声援を受けて、私の方がたじろぎました（苦笑）。生産コストと販売価格の差額を補填する制度設計

自体が矛盾していますね。

稲田 それに気づいたのか、鹿野道彦農相は、来年度から、農地を広げる農家に対して、交付金を上乘せする「規模加算」を導入する方針を示しました。でも、「弱者切り捨て」といって、小規模の兼業農家を保護しておきながら、今度は国際競争力を高めるために大規模化を促したい、というのは矛盾もなほだしい。きっちりとした説明がなければ、農家も黙っていないと思います。

TPPの交渉参加国は十一月現在、米国、オーストラリアなど九カ国で、中国は入っていません。だから、たとえば、中国を囲い込んで、その経済への影響力を低減させるために参加するのだ、といった大きな構想があるのでしたら、農家も聞く耳を持つかもしれません。でも、菅内閣は「TPPに今、入らないと乗り遅れますよ」という高齢者を騙すような口で、ことを進めていますね。

田中 僅か三カ月前には永田町でも

大手町でも誰も耳にしなかったTPPは、農業だけでなく金融も保険も医療も、更には電波・放送、公共調達、派遣労働もゼロベースで非関税障壁を撤廃するのですから、早い話がアジアの「米連邦」化です。TPPは羊の皮を被った狼。だから、中国も環太平洋でないインドもEUもTPPには参加せず、二国間のFTA（自由貿易協定）締結に力を注いでいるのです。

どこの国も米国抜きでは生きていきません。同様に、今後は中国抜きでも難しい。とするなら日本も、日本抜きでは他国が生きていけない、そうした存在と信頼を勝ち取る戦略と戦術を早急に構築すべきで、その意味でもTPPよりもFTAだと思います。

「自分が自分が」の民主党

稲田 民主党には優秀な方もいらっしやるのに、なぜ菅内閣はここまでひどいのでしょうか。

田中 確かに埋もれている逸材は多

い。でも、嫉妬されるのか、往々にして疎んぜられている。だから、生煮えの混ぜご飯、のびた煮込みうどんなのかな。多くの方も指摘していますが、民主党内の意思決定のプロセスが不透明で、整備されていない弊害もありますね。だから、党の意思統一が図られず、グリップも利かず、閣僚や議員が自分勝手な発言をしちゃう。

稲田 普天間問題のときがまさにそうでしたね。自民党が与党にいれば、あのように関係がばらばらのことをいうなんて考えられませんよ。民主党は個々の議員は優秀なのかもしれませんが、自分が自分という人の集まりのような印象を以前から持っていました。内閣や党が一体になって、力を発揮できないのは、そのせいではないでしょうか。

それに対して自民党内には部会、総務会が厳然とあって、意思決定のルールははっきりしています。だから、これまででも構造改革や財政再建などをめぐって、党内で喧々諤々の議論が交わ

されましたが、一度、決まれば、それで行こう、と党が結束するのです。

田中 三年前、参議院議員になった時分は、野党だった民主党と統一会派を組んでいたのですが、民主党が催す朝の部門会議に出席していましたが、なんとも居心地の悪い違和感を抱くことが多かったですね。というのも、厚生労働省や国土交通省の官僚を呼んで、なんでこうなっているんだ、と重箱の隅を突くお姑さんの指摘ばかりで。

菅さんと一緒に七年前、諫早湾干拓事業の視察に出掛けたら、どうして税金の無駄遣いを止めないんだ、と権限もない現地事務所長を面罵した光景を、しばしば想い出しました。追及する相手を間違えているんですよ。職員の仕事は下がるばかり。それでいて、首相になっても、開門調査すら命ぜられないのですから、いやはやです。

全員参加で政治主導を進めるのだと「四百十二人内閣」を掲げてますが、だったら、三十人ずつ各省庁に机を置いて、職員と日々、現場に出掛け、

侃々諤々、予算を一から一緒に作って
いけば、勉強になると思います。首長
の経験を踏まえて、随分と助言したん
ですけどね……。事業仕分けのような
プロセス中継では、何も変えられませ
ん。事業仕分けは、〇×式の戦後教育
の弊害に似てますね。

ダムを造るか造らないかの二元論で
は解決しません。治水が不要な筈もな
い。じゃあ、護岸を補強するのか、遊
水池を設けるのか、森林整備を進める
のか、大臣の私はこういう方針だか
ら、具体的な代替案を君たちの力で考
えてほしい、と叱咤激励しなくちゃ、
官僚のやる気は喚起できませんよ。

福田 そうですね。官僚をいじめて
官僚の地位を低くすることが政治主導
と勘違いしているように思えます。

松下政経塾出身者は養殖政治家

田中 迷走する「仙菅ヤマト」内閣
が、青年の主張を超えられない最大の
原因は、現実を体感できないことに

使命だと思っている。共にノーマン
(能面)クラツラ(苦笑)。だから、
水と油に思える両者が混ぜご飯として
続いているのかな。生煮えです。

福田 そう、感受性に乏しい。政経
塾の人は格好もいし、演説もうまい
けど、何となく養殖された鯛みたいな
気がします。天然ものじゃない。

でも、私にとつての政治の原点は、
高尚な理論などではなくて、一緒に泣
いて一緒に笑って、人々と共通の体験
をするところにあります。私の
地元は福井県ですが、そこで一緒に田
植えや稲刈りをして、共に感じるこ
とから、今、政治がやるべきことが見え
てくるのです。菅内閣からはそのよう
な共感を感じられなくて、なぜだか冷
たいと思うのですよ。

田中 稲田さんと対談する中で、イ
デオロギーとしての「保守」を超え
て、大平正芳さんが唱えた「田園都市
国家」のような哲学が、迷走・混迷す
る日本に求められている。保守ルネッ
サンスではないかと思えてきました。

あると思います。自社さ政権が発足し
た一九九四年にお会いした梶山静六さ
んが、「日本には素晴らしい歴史も文
化もある。でも、その日本はグライダー
だ。なのに、最近の若い政治家は日本を
ジャンボジェットだど勘違いしている」
とおっしゃったのを思い出します。

つまり、風の匂いや強さ、向きを敏
感に感じて、操縦しなければ墜落して
しまうのが日本であり、その舵を執る
のが政治家の役割なんだ、と。でも、
民主党の政治家たちは、窓も開けず、
風も感じずに、飛行機の計器盤だけを
見て、操縦しているように思えてなり
ません。計器盤に表示された数値が間
違っていているのではと疑ったこともな
い。かつての自民党の政治家には腹黒
い部分もあったかもしれないけど、現
実の風を直に感じる知性、感性、そし
て温もりがあった気がします。

福田 その通りですね。菅首相が勝
った民主党の代表選を見ていて思った
のは、何とというか、自民党にはある血
の通った体温やぬくもりをまったく感

福田 夏に上梓した「私は日本を守
りたい」の後書きでも、「保守」とは
特別のことではありません。家族と地
域共同体に価値を置き、まじめに生き
る人々の生活を守ることが、私の言う
保守です」と記したんです。

田中 そう思えるのは、稲田さんに
福井という場所があつて、地に足がつ
いているからでしょうね。私も山国で
知事を務めなければ、体得できなかった
かも知れません。友人の分子生物学
者の福岡伸一ハカセが言うには、人間
の体は六十兆もの細胞で構成されてい
て、脳や心臓がすべてをコントロール
しているのではないと。痛いか温か
いとか、それぞれの細胞が知覚して、
反応するのだと。

日本という国家も同じでしょうね。
東京や大阪という脳や心臓だけにな
く、津々浦々の集落、あるいは大都会
の路地も一つひとつ、活性化してい
こそ、国家として機能するのです。そ
うでない、図体だけ立派でも、「骨
粗鬆症」の国家になってしまうと。

じないなあ、ということでした。

田中 先程の公務員兼農業家への
「ヤミ手当」質疑には後日談があるの
です。労働貴族批判だったから野党席
から拍手されたのかな、と思ってい
たら、散会後に自民党の一人が駆け寄っ
てきて、いやあ、質問を聞きながら目
の前に選挙区の情景が浮かびましたと
語るんです。戸別所得補償、なんだか
変だぞ、と思っていいたら、そうか、あ
の年老いた専業農家は逆に対象外
だ、と。その話を聞いて逆に私は、現
実のディテールに基づく大局観が、松
下政経塾と労働組合出身の議員には稀
薄なのかもしれないと感じました。

経済は歴史現象だから、科学は自然
現象だから、二度と同じ具合には繰り
返されない。なのに、政経塾出身者は
机上のケーススタディ通りに、自分の
習った理論通りに現実が動くと思ひ込
んでいる。組合出身も、計画経済の発
想を元にした上意下達の組織に慣れき
っていて、定めた数字通りに動くのが

福田 やっぱり政治家は、どぶ板
地元活動が基本です。それがない政治
家がいくら理路整然とした政策を唱え
ても全然、国民の心に響かないもので
す。菅内閣の政治が「きれいな事」や
「ごっこ」に見えて仕方がないのは、
その基本がないからではないでしょう
か。政治って、もっと泥臭いものでは
ずなのに、政治家が体当たりでぶつか
って掴んだ認識がちっとも見えてこ
ないのが、菅内閣の政治から感じられ
る気持ち悪さです。

田中 私も同じ思いで毎週、民主党
の政調や国対の幹部との会議で申し上
げているんです。煙たがってる議員も
中には居るでしょうね。でも、夫婦で
も親子でも恋人でも、相方が歩むべき
道を見失っていたら、そのことを指摘
してこそ真のパートナーでしょ。

福田 とにかく真面目に真剣に政治
に取り組んでほしいですね。

田中 政党政治に国民が幻滅して、
過激な熱狂に走らないためにも、お互
い、踏ん張りましょう。